

今から指導訓練すべきである。幸ひ我國には古來より他に
見ざる足場技術あり此の重寶な技術を此の機會に一般民衆
に土木技術と共によく體驗修練せしむれば聽て民衆に科學
的興味をそゝり、民衆自身進んで協力もし或は又素人技術
の甘味を發見せぬでもあるまい。斯様に精神に身體に國家
に對する協力犠牲の觀念を培養せしむることは現下最も緊
要のことと思ふ。

國內交通か一時たりとも停滯故障するときは全國に及ぼ
す影響は甚だ大なるものがある、依て平常より如何に國民

一人一人の力が重要なるかを自覺せしめ、國土保全に協力
せしめねばならぬ。然し其の指導訓練を爲す關係官廳、府
縣公共團體の土木係員、警察官は自己の責務の重大なるを
痛感して職域奉公の誠を盡し、親切丁寧に指導訓練し萬一
の場合氣持良き協力を得ることに心懸けねばならぬこと、
思ふ。

以上述べ來つた卑見か多少とも當事者の耳に入り、戰時
下道路交通計畫が樹立されることとなれば幸甚である。

獨逸自動車専用道路の給油所に

就いて

M
・
T
生

自動車専用道路の建設と同時に、これの附屬的營造物たる給油所の設置並に經營が問題となつて来る。普通には、給油所は私的會社の經營に委かされ設備及經營方針には専用道路の本來の目的と逸れて單に利潤本位に營まれてゐる。併し乍ら獨逸に於ける給油所は、獨逸自動車専用道路會社の子會社たる自動車専用道路燃料會社の經營となり、其の建設及經營には統一の方針が加へられ、利潤本位より自動車常用者の利便並に自動車専用道路の持つ國家的意義へと重點が移つてゐる。以下給油所建設に至る經過を述べて見よう。

一九三三年六月二十七日の獨逸自動車専用道路會社創立に關する法律及これの施行令の内には、自動車専用道路の兩側より五百米の距離内に於ける副業經營の獨占權は自動車専用道路會社に屬すと云ふ規定がある。この副業の内には特に給油所經營を擧げることが出来る。この規定に依つて燃料供給に關する獨占的地位が獨逸自動車専用道路に留保されたのであるが、勿論かゝる施設は經濟事情に應じて

設けられたのである。

自動車専用道路は、専用道路が吸収したり、又は新規に形成する強度交通に依り、燃料經濟上重要な役割を演じて来る。専用道路に於ける燃料の販賣數量は、専用道路網が完成した曉には必ずや獨逸に於ける全消費量の過半數を占めることは疑ひない。この事は、既に現在設置されてゐる自動車専用道路給油所の實績及交通量に依つて十分推察できるのである。

獨逸自動車専用道路の建設計畫が公表されるや、早速主要の燃料諸會社は、將來専用道路の出入路となるべき地點に沿へる該會社の既設給油所の大擴張を計つたり、又はかかる地點に給油所を新設せんとする意圖を抱き始めた。所で自動車専用道路に與へられた燃料販賣の獨占的地位を護持せんとするならば、何等かの方法でかゝる傾向を抑制しなければならなかつた。然うでなければ、出入路の給油所網建設強化に當つて獨逸自動車専用道路給油所の持つ意義は著しく減退してしまふことになる。が故に、差し當つて

自動車専用道路々線の兩側十杆内には、たゞ特別條件の下に於いてのみ給油所を建設せしめることになつた。其の後經濟的理由より全獨逸領土に對し一九三四年七月二十四日公布の「給油所網制限に關する法令」に給油所設置の制限が規定された。この法律に従つて獨逸自動車専用道路の兩側から十杆内に於ける給油所の建設、擴張又は移轉には獨逸道路總監の同意を要することになつたのである。獨逸自動車専用道路の監督官廳たる道路總監が介入することになつたので、制限地帯に給油所新設の申請がある場合には、道路總監は自動車専用道路の計畫の給油所網組織を顧慮して、總べての申請を再検査するに至つた。又給油所建設制限は燃料會社にとつても有利となつたのである。何故なら、之に依つて競争的投資は防止され、統一的經濟的並に合理的發展の方法が講じられるからである。

其の後自動車専用道路の燃料供給の種々なる計畫が再検討され、獨逸自動車専用道路給油所經營のために特殊會社を建設することとなり、之に對し關係諸大臣は同意したの

である。「獨逸自動車専用道路」會社と新設の獨逸自動車専用道路燃料有限責任會社との間に締結された契約に依つて、獨逸自動車専用道路燃料會社は、自動車専用道路に於ける給油所經營並に燃料及滑油販賣の獨占權を取得し、之に對し燃料會社は自動車専用道路會社に一定の賃料を拂ふことになつた。自動車専用道路會社は、この賃料を取得する以外に雜費並に獨逸國立銀行の割引歩合に準ずる利益歩合を社員に残して、尙純益殘額がある場合は之を自由に處理することが出来るのである。

自動車専用道路に於ける給油所の建設は、獨逸自動車専用道路會社の費用により、並に建設指導もこの會社に仰いでゐる。合目的なる場所選定には獨逸道路總監の許可を必要とする。給油所自體の設計は、獨逸自動車専用道路會社の所管事項であつて、之を援助するために種々なる技術者が相談にあづかる。かくして、今日迄に建設された給油所は、建設技術的に觀て全く非の打ち所なく、専用道路と有機的な融合をなし、給油所建設の模範となるに至つた。併

し乍ら、其れにも拘はらず、今日の形態が未だ最後のものではなく、今迄の経験を基礎にして、常に新らたに計畫を樹て、最後に最も完全なる給油所施設を企圖してゐる。給油裝備も亦今迄建設された内で最新式なものであり、更に経験に基づいて益々改良されることになつてゐる。

自動車専用道路給油所の獨占的經營及燃料並に諸油の販賣權を獨逸自動車専用道路燃料有限責任會社が委託を受けたる結果、交通開始前の各路線には直ぐ營業の出来る給油所がなかつたと云ふ事態が生じた。この中間期を埋めるために、獨逸自動車専用道路燃料會社は、路線に給油所が未だ營業されてゐない場合重要な出入路に臨時の給油所を設け、其處で自動車常用者にガソリンの補給を行ふことにした。固定的給油所の施設が完成する及んで、この臨時給油所は廢止されるに至つた。

自動車専用道路燃料會社の給油所は、從來燃料販賣の慣習となつてゐる如く商標を示して其の商品を渡さず、たゞベンチン及混合燃料として販賣するので、營業當初かゝる

方法は自動車常用者の不安を買つて營業を著しく不振ならしめやしないかと考へられた。ベンチン及混合燃料と云ふ如くに劃一的名稱で全自動車専用道路網に於いて燃料を販賣する如き方法を執るに至つたのは、政策上の理由からであり、同時に又統一化に役立たしめたからである。かゝる販賣法は、實に自動車常用者に對しては一種の冒險的試みであつた。併し乍ら、一年間の経験と自動車専用道路給油所の販賣數量は凡ゆる危惧に根據が無かつたこと、自動車常用者が獨逸自動車専用道路に全幅の信頼を寄せてゐるだらうと豫期してゐた人々を裏切らなかつたことを確證してゐる。自動車常用者は専用道路給油所に於いて良質の燃料の購入が出来ることが判つて來た。事實、自動車専用道路給油所で無商標で販賣される燃料は良質なものである。之に反し、給油所で販賣される滑油類は商標附である。何故なら、滑油類に對しては燃料に於ける如くに規格油を規定することが出来ないからである。

自動車専用道路燃料會社の設立と共に、燃料調達は之と

關係を有する商工業界の注目的となつた。自動車専用道路は、特別の供給所を定め、専用道路の全供給を若干の企業に獨占的に委託するであらうと想像されたのであつた。

自動車専用道路燃料會社は、現在燃料工業會社及商會社との協約に基づいて、その全燃料需要を満たしてゐる。

尤も燃料政策上の理由から、自動車専用道路燃料會社に中小商人が燃料及諸油を供給することは出来なくなつた。燃料供給には、大燃料會社が當るのであるが、之等の會社は決して獨占が認められず、従つて自動車専用道路に對する供給を支配することなく、むしろ之等の會社以外に卸賣業者も十分供給の保證をなすことが出来る限り同一權利の供給者として登場することが出来るのである。註文は自動車専用道路燃料會社を通じて行はれるが、全配給計畫並に方針は、會社の監督官廳及國家の代表者としての道路總監に依つて確立される。

自動車専用道路給油所への燃料供給は、自動車専用道路の意義に即した歩合の割引で行はれる。一方、自動車専用

道路給油所は出来る丈、高率の割引歩合を得るやう努力しなければならぬ。何故なら自動車専用道路燃料會社の利益は、購入價格と一定の販賣價格の差額から雜費を控除した殘金からのみ生ずるからである。かくして、自動車常用者は、専用道路給油所に於いて常に適正なる價格で燃料を購入出来るので、特に重い負擔を受けることがない。

この利益は、經營權讓渡を受けたがため、自動車専用道路會社に支拂ふべき賃料支拂に先づ役立つ。既述せる如く賃料以外に、自動車専用道路會社は雜費及利益配當を控除して殘存する純益の自由處分が出来るのである。

獨逸自動車専用道路一九三六年度事業報告は、經營決算として始めて行はれたものであるが、収入は主として給油所經營から生じたものであることを記してゐる點から考へて純益は相當額に上つてゐることが判る。

其上、自動車専用道路の經營は辛つと軌道に乗つたと、及今迄の經營實績は前以つての豫想と全く一致してゐたことを考へるならば、自動車専用道路燃料會社の重要性

が時と共に經營面に現はれることは推察出来る。

自動車専用道路燃料會社の設立に依つて、専用道路給油所を最も適當な方法で營む形態が発見されたのであるから、私營の給油所も適當な方法でこの會社に關係することになるであらう。獨逸自動車専用道路燃料會社は、獨逸自動車専用道路會社大多數の株式参加に依つて國營會社となつてゐるため、これの支配は受けてゐるが、獨逸の經濟事情及燃料經濟の發展の點から考へて、矢張り多數の關係會社が株式参加することになるであらう。勿論この場合、勢力の重點が國家にあることは言ふ迄もない。

獨逸自動車専用道路燃料會社はダルムシュタットの最初の大給油所以外に次の給油所を經營してゐる。

既に建設が完了して事業成績を擧げてゐるもの。

ケーニヒスベルク、コルピツオーヴ、シュヴァーネベツク、ヴェルデル、マグデブルク、ブラウンシュヴァイク、ハノーヴァー。

ジツテンゼン、ジユツセルドルフ、北口及南口、オブラ

ーデン、ケルン、北口、バート・ナウハイム、フランクフルト・アム・マイン、北口、ダルムシュタット。

ロルシ、ブルフザール、ホルツキルヘン、ローゼンハイム、プフランドルフ、ランツェンドルフ、ライプチヒール、メルゼブルク、クライバウ。

經營の緒についたもの又は準備中のもの

シュライツ、リークニツ、ジークスドルフ、ハムブルク、グライヴイツ、東口。

チーザル、カツセル、フォーゲルスドルフ、バイロイト、ニュルンベルク、ラウフ、

シュトゥットガルト、ネーラネ、ケムニツ、ゲーラ。

今後更に新線の經營開始と共に給油所計畫が進捗し、漸次に全自動車専用道路網には近代設備を有する給油所が建設されることになるであらう。

× × × ×

× × × ×